

【万緑】ばんりよく

ざくろは6月から7月に6枚の花弁の朱色の花を咲かせます。

・万緑 叢中 紅一点 人を動かすに春色多くを須みず 『石榴詩』

[バンリョク ソウチュウ コウイッテン 人ヲ動カスニシュンショク 多クヲ モチイズ]

この詩は宋の詩人王安石の作という伝えがありますが、彼の詩集にはなく確かではありません。大地に生い茂る緑の中、一点の紅色のざくろの花が映える景色を喩えて、優れたものは多くを語らずとも自ずと存在が明らかなものだということです。

後世この詩を本に、男たちの中に一人いる女性のことを「紅一点」というようになりました。大切な存在としての意味を込めてのことです。

・万緑の中や吾子の齒生え初むる 中村草田男

[バンリョクノ中ヤ アコノ歯 ハエソムル]

中村草田男(明治34～昭和58)は高浜虚子門下、「ホトトギス」同人。

草田男は『石榴詩』から「万緑」に着目しました。

花(紅)を齒(白)に換え、愛情と生命力の溢れる句に再生させたところに草田男の才が見られます。漢詩からの引用は俳句にしばしばあることですが、これほどのヒットは稀ではないでしょうか。以来、多くの句に詠み込まれ、夏の季語として定着しました。

この句は昭和14年『火の島』所収ですが、10年後には師の虚子も

・万緑の万物の中大仏 と詠んでいます。

草田男自身気に入っていたようで彼の第三句集の題、創刊主宰した同人誌の題も『万緑』となっています。

・白鳥は哀しからずや 空の青 海をあをにも染まずただよふ 若山牧水

この歌の構図は広大な空間を一点の色が引き締めている草田男の句と色の違いこそあれ共通するものがあります。

緑や青は広がりイメージさせる色なのですね。

色にも生まれつきの役回りがあるようです。

色のイメージは民族により受け止め方が真っ向から異なる場合があります。

しかし、金(富貴・永遠)、緑(野山)、青(空・海)は多くの民族に共通するように思います。

「万緑」は野山の広がり、溢れんばかりの生命力を表わす言葉で、これからの夏にお勧めの銘のひとつです。

<http://www.morita-fumiyasu.com/>

~ Copyright (C) 2011 ~私の書齋~ 森田文康. All Rights Reserved.~